



IRIS(アイリス)は、菖蒲・花菖蒲など、あやめ科の植物を表す言葉ですが、ギリシャ神話では「虹の女神」のことをいいます。アイスクラブ通信「虹」は、子どもとみなさまを結ぶ架け橋として、楽しんでいただけるよう、また、お役にたてるようにと願い、会員のみなさまにだけお届けしております。

ごあいさつ

アイスクラブ会員のみなさまには本年も格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

また、各地に甚大な被害をもたらした台風19号による被害を受けられたみなさまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

この国は今や毎年大きな災害に見舞われ、その傷跡は癒えることがありません。私たち公益社は、大規模な災害に際し、支援活動とともに、命の最期に立ち会う社会的使命を強く認識し、遂行しなければなりません。そうすることで地域のみなさまに、ほんとうの意味で安心と信頼をお届けできるのだと考えます。

弊社は、2019年1月、県内初となる葬儀・法要相談専門サロン「PLAZA IRIS」をオープンいたしました。現代はインターネットで検索すれば「Q&A」が表示され、過去の質問分析から回答が表示されます。しかし、いまひとつ判らない経験をされた方も多くいます。取扱説明書通りには解決できないのです。人はみな、異なる環境で暮らし、悩みをもっています。その、お一人おひとりのご相談を承るのが「PLAZA IRIS」です。いつでもお気軽にお立ち寄りいただけるサロンでありたいと願っております。

私たちは人と人との繋がりを大切にしながら、地域のみなさまの暮らしをサポートし、より身近に心が通い合うサービスを提供してまいります。

今後とも公益社グループならびにアイスクラブをどうぞよろしく願ひ申し上げます。

株式会社公益社 代表取締役 木川英樹

歳時記

やくやくよ 厄と厄除け

古代中国の医学や人生の節目に設定されたものが『厄年』です。これが、日本に伝わり、平安時代頃から決められた年に「何らかの災厄にかかりやすい」として、公家や武家が陰陽道の思想を取り入れ、陰陽師による厄除けが始まりました。その後、民間にも浸透し、現在でも根強く信用されています。

「厄年」は詳細は不明な点が多いのですが、『厄』とは「災い」「不吉」「苦しみ」等で、古くは「疫病」をもたらすのは神のなせる業と信じられていました。その神を厄病神とか疫病神と呼び、このような「神」が来るのを防ぐために「厄除け」行事を行っていました。「厄年」は災厄が多くふりかかる年齢とされる年です。

「厄年」の年は有名な「和漢三才図経」に男「25歳・42歳・61歳」、女「19歳・33歳・37歳」と書かれています。

「厄年」は年齢的に、また精神的に変調のきたす年齢で、家庭生活、社会生活の中で転機を迎え、災いが起こりやすい慎むべき年齢といわれます。

特に男性の「大厄」は「大役」ともいい、一定の地位や立場になる役目を与えられる年齢でもありますので、心身に心掛け言動に気をつける年でもあります。

男子の42歳は(死に)を、女子の33歳は(さんざん)を連想する迷信が昔からあったのです。

「本厄(大厄)」を中心に前後1年前厄(その前兆)「後厄(その後の恐れが薄らぐ)」期間があります。

厄年の「年」の考え方は多種あるようですが、早生まれの関係なく、1月1日~12月31日となっています(数え年)。

(昔は立春になる前の日の2月3日や1月1日~15日の神様のおられる間に厄払いをしておきました。)

「厄」を落とすことを「厄払い」「厄除け」「厄落とし」と災厄を防ぎ取り払う儀式がありますが、神社では「厄祓い・厄払い」といい、寺院では「厄除け」といいます。

(猫田文吾)

PLAZA IRIS OPEN!

オープンイベント

県内初の葬儀・法要相談専門サロンオープン

メモリアルプラザ公益会館の隣に1月末、県内初となる葬儀・法要相談専門サロン「PLAZA IRIS」をオープンいたしました。オープンイベントの際には、無料セミナーや文化講座などを開催し、たくさんの方にお越しいただきました。

またオープン後も、ショールームにお越しいただき、お供養を相談される方や、葬儀について事前相談される方など、お陰様でプラザアイリスをご利用される方が増えてきました。

これからも各種ご相談内容に応じて、お気軽にお立ち寄りいただけるサロンとして、みなさまのお役にたてるよう努めてまいります。



▶セミナー「今どきの葬儀事情とは」



▶生前写真撮影会



▶事前相談



▶ショールーム

FLOWER GARDEN IRIS

Flower Garden IRIS HIKONE 移転 OPEN

去る6月27日(木)、私たち Flower Garden IRISはPLAZA IRIS 内にて、移転オープンしました。

オープン当日は、梅雨空の中晴れ間ものぞいて、たくさんのお客様にご来店いただきました。ありがとうございます。移転して約半年。「近くなって便利になったよ」と言ってくださるお客様や、「遠くなったなあ」と言いながらも笑顔でご来店くださるお客様方に、支えていただいていることを、改めて実感し、感謝している毎日です。

これからも、今までと変わらず、みなさまの日々の暮らしにお花をプラス、そして笑顔いっぱいでお届けできますように♥



生花部の1年

生花事業部は、その名のとおり、ご葬儀でお供えさせていただくお花を作り飾ること、Flower Garden IRISの店舗運営を担当しています。

Flower Garden IRISでは月1回のお花のレッスン「Salon de Fleur+」を開催して2年目となりますが、今年から研修の一環として生花事業部のメンバーも同席させていただいております。どんなシーンでもお客様にお応えできるよう、いろいろな角度からお花を探究しながら、和気あいあいと研修しています。この探究心を軸としてこれからの業務に生かせるよう、今後も切磋琢磨しながら、みなさまにご満足いただけるお花をお届けします。

「Salon de Fleur+」2019

- 5月17日(金)・18日(土)
「FLOWER DELI」
生花のアレンジを花の選び方から
- 6月7日(金)・8日(土)
「カレイドフレームアレンジ」
刺しゅう枠を使ったフレームアレンジ
- 7月5日(金)・6日(土)
「お部屋で楽しむ箱庭」
まるでお庭のような寄せ植え
- 8月2日(金)・3日(土)
「ボタニカルキャンドルホルダー」
お花がいっぱい! グラスのキャンドルホルダー
- 9月6日(金)・7日(土)
「ローズメリアのBOXアレンジ」
プリザーブドフラワーの花びらを重ねて大輪のバラに
- 10月4日(金)・5日(土)
「秋色アジサイのリースアレンジ」
シックな色のアジサイのリース。そのままドライにも
- 11月1日(金)・2日(土)
「コーンスタイルアレンジ」
円すい形に仕上げた生花のアレンジ
- 12月6日(金)・7日(土)
「X'mas スワッグ」
人気のスワッグ。半円形で X'masらしく



- 🌸 春の花まつり in フラワーガーデンアイリス (旧彦根店) / 3月16日(土)・17日(日)
- 🌸 秋の花まつり in フラワーガーデンアイリス TAGA / 9月29日(日)

葬祭フェア

近江八幡公益会館

3/31
(日)

- 人形法要祭 ●琵琶説教耳なし芳一
- 花ひろば市 ●事前相談会 ●生前写真撮影会



人形法要祭



琵琶説教耳なし芳一



花ひろば市

9/29
(日)

- 「秋の感謝祭」 ●人形法要祭 ●生前写真撮影会
- FLOWER BAZAAR ●修活セミナー



人形法要祭



FLOWER BAZAAR



修活セミナー

文化講座

八日市公益会館

3/2
(土)

楽楽講座～暮らしにお花を！～ 「ハーバリウム教室」

ご夫婦仲良くいろいろな色を楽しまれる方、お孫さんへのプレゼントにと一生懸命作成される方など、様々な年代の方にご参加いただけた教室となりました。



6/30
(日)

花ひろば市 & 楽楽講座

恒例の花ひろば市は、雨天の中でも200名を超える方にお越しいただき、行列ができるほどの賑わいで、終了時刻を待たずして完売。

楽楽講座は「アロマスワッグ教室」。好きなお花を選んで、スワッグ(壁飾り)づくりを楽しんでいただきました。



▲花ひろば市

▼アロマスワッグ教室



近江八幡公益会館

2/24
(日)

「悩まないで!今どきの介護講座」

講師 社会福祉法人一善会 赤煉瓦の郷施設ケアマネージャー 田中由美氏

4/28
(日)

「簡単煮物講座」

講師 日本料理 魚庄 代表取締役 園田正弥氏

7/13
(土)

「神道と御代替わり」 ～いにしえからの文化に触れる～

講師 日牟禮八幡宮禰宜 岳 一隆氏

神道の歴史や天皇の譲位に関すること、専門的な内容に至るまで時間を延長して、熱の入った講演をしていただきました。参加されたみなさまは熱心にお話を聞いておられ、「あつという間でした。もっとお話を聞きたい」などのお声もいただきました。

9/14
(土)

「禅の教えと坐禅体験講座」 ～心をリセット～

講師 興福寺住職・禅文化研究所主幹 西村恵学師



冒頭、講師から警策(けいさく)を肩に入れてほしい方は、通り過ぎる時に合掌で合図をくださいとの説明を受け、坐禅がスタート。張りつめた静けさの中、受講者が合掌で合図をされた瞬間、「バシッ!バシッ!」と音が響き渡りました。前半後半各15分ずつの坐禅が終了し、講師の法話の時は皆さん緊張から解き放されたのか、ニコニコされておられました。

フィリアホール彦根

3/10
(日)

「終活(修活)の始め方」

講師 冠婚葬祭アドバイザー 戌亥正三郎氏



6/30
(日)

「カイロプラクティック教室」

講師 カイロプラクティック ニコ 藤井氏

体や骨のしくみなどを学んでいただいた後、カイロプラクティックを体験。ゴムバンドを使用した体操では「身体が軽くなった」「暑いくらいにぼかぼかした」などみなさま笑顔でお話しくださいました。



9/23
(月)

「少しでも損をしないための 年金講座」

講師 社会保険労務士 北川圭英氏

気になる年金のしくみについて、予定時間を15分オーバーするほど熱心に丁寧にお話しいただき、内容の濃い講座となりました。





▶四本の杉の大木と十二相神社

2020年のNHK大河ドラマは「麒麟がくる」。智将・明智光秀が主役だ。光秀が築いた「坂本城」や一族の墓のある「西教寺」がゆかりの地として有名だが、新たに光秀公の出身地と名乗りを上げたのは犬上郡多賀町佐目である。

光秀は、織田信長の家来となって頭角を現し歴史の表舞台にたったときには既に40歳を過ぎていた。その前半生は全く謎に包まれ、どこで生まれたのかも判っていない。そのため、数

少ない史料をもとに、美濃の守護・土岐氏一族の出身が定説となっているが、生誕地については諸説がある。光秀出生の伝説が残るのは恵那、河兒、瑞浪、山県、大垣などだが、佐目が名乗りをあげ話題になっている。

貞享年間(1684~1688)に成立した『淡海温故録』に、犬上郡佐目(多賀町)における光秀出生伝承が記されているのだ。享保19年(1734)に完成した『近江輿地志略』にも同様に光秀の出身が記されている。

美濃出身の明智十左衛門が、佐目に移り住み二代、三代を経て、十兵衛光秀が誕生した。優れた器量を持ち、越前朝倉氏のもとに士官したというようなことが記されている。

また、佐目には光秀に関するいくつかの伝承が語り継がれている。

- 光秀のミツから字をもらい「見津」と書き「けんつ」と名乗る一族が佐目に存続している。

- 「十兵衛屋敷跡」の位置が見津家に口伝として伝わっている。

——口伝の地は、佐目十兵衛会が「十兵衛屋敷跡」として、看板と、『淡海温故録』の原文

と現代語訳の両方を記した案内板を設置し、公園として整備を進めている。

- 佐目の「十二相神社」は、以前は十二相権現社といい、明智家発祥の美濃・土岐に分霊されている。

- 佐目には3つの山城があり、戦国時代の重要なポイントだった。

三重県から鞍掛峠を越えて、犬上川の川沿いに進めば、多賀や甲良に出るのは決して難しいことではない。また、岐阜県上石津町から、時山~五僧を越えれば多賀に至る。戦国時代、隣国の軍勢を警戒し、監視の城として築城されたであろうと考えられる拠点の一つが「明智丸」である。佐目の十二相神社から高室山に続く登山道に入り、登り坂の厳しい山道を30分ほど登る(基本的には高室山の登山道を進む)と狭いながらも開けた場所に出る。ここが明智丸の入り口となる。

さて……、「十兵衛屋敷跡」は十二相神社の鳥居をくぐった参道途中にある。2020年の初詣に訪れておきたい神社の一つである。

雲行

TOPIC
1

第71期 期首全体会議

公益社では10月より新たな期が始まります。毎月の月初めには全体会議を行います。10月は「期首全体会議」として、今期の目標達成に向けて方向性の一致、団結を図る機会と位置付け、新年の元日と同じように考えています。

期首全体会議では、当社代表より今期の経営方針の発表があり、全社員がその発表に緊張感と決意を持ちました。そして前期の公益社アワードの表彰。お客様への高品質なサービス提供を誰よりもできた者、自分自身の行動を変え周りに良い影響を与えた者など、今回は4名が最優秀賞から努力賞までを受賞しました。また、各部署からは前期の検証と今期の取り組みの発表。最後には社員代表による宣誓式と、とても充実した内容の会議になりました。



TOPIC
2

第24期 公友会定時総会・研修会



公益社の協力業者会(公友会)の定時総会・研修会が開催されました。

最初に当社代表から協力業者のみなさまに現状報告、公益社第71期の経営方針を発表。今期もより一層の協力体制をお願いするとともに、公益社にとって協力業者みなさまが、大切なパートナーであることを再確認いたしました。

また、研修会ではフラワーガーデンアイリス主催の「ハーバリウム教室」を開催いたしました。好きな花材を選んでボトルに詰めオイルを入れていき、オリジナル作品ができ上がりました。

普段なかなかお会いすることができない協力業者のみなさまと顔を合わせながらお話しができ、有意義な時間を過ごすことができました。

厚生労働省認定 葬祭ディレクター技能審査

この資格制度は、葬祭業界に働く人にとって必要な知識や技能のレベルを審査し、認定する制度です。葬祭業界に働く人々の、より一層の知識・技能の向上を図ることと併せて、社会的地位の向上を図ることを目的としています。

高齢社会を迎え、葬祭業務の社会的重要性が高まるとともに、葬祭サービスが、消費者の身になり、消費者の視線に立っての、細やかで専門性をもったものであることが求められています。葬祭サービスを提供するに相応しい人材であるかを総合的かつ客観的に評価する本制度が重要な役割を担っています。

当社の受験資格に達した若手葬祭スタッフも本年受験し、葬祭ディレクター1級の資格をとることができました。

試験当日の様子をご紹介します。

午前9時、試験会場に到着。試験を受けるのは学生以来で懐かしさに浸りつつ、受験者が会場に到着するにつれ、緊張感も増していききましたが、勉強の成果をしっかりと結果に出せればと思っていました。

試験内容は学科試験と実技試験に分かれており、実技試験は、幕張・司会・打ち合わせの質疑応答の3種類があります。学科試験は問題なく解答できたのですが、実技試験の幕張で大きなミスをしてしまいました。前半は順調に進



ていたのですが、途中張った幕の布を足で引っかけてしまい、幕が剥がれていました。緊張していたため、終了間際に気づき焦って手直しました。一番練習してきたのでこんなミスをするとはがっかりしていましたが後日、合格通知をいただきました。今まで以上に日々の業務に精進していきたいと思えます。（遠藤 俊）



納棺について

納棺とは、お通夜の前にお身内・ご親族の方が集まって故人様の身支度を整えて、お棺にお納めすることです。私たち納棺師は、おじいちゃんのごだわりのお髭を整えて欲しい、おばあちゃんがいつも大切な時に着ていた着物を着せて欲しい、阪神ファンのお父さんに六甲おろしを聞かせてあげたいなど、ご家族のご要望をお伺いしながら納棺を進めております。そんな時はご家族が思い出話をされて、みなさまが笑顔になる場面もあります。

また、ご主人が亡くなられた奥様に初めて「ありがとう」と言葉で伝えられた時には、悲しみの中にも温かさがありました。ご家族それぞれのお別れの形があります。私たち納棺師は、ご家族の大切なお別れの時間にご一緒させていただき、少しでも故人に寄り添えるお別れになるよう、つとめさせていただきます。

納棺師 笠原貴義



滋賀県総合防災合同訓練

9月1日(日)高島市で行われた第3回滋賀県総合防災訓練に、滋賀県葬祭事業協同組合の一員として参加をいたしました。

この総合防災訓練は防災の日になんだ訓練で、いつ起きてもおかしくない大規模災害に対し、県下各部門(滋賀県、市町村、自衛隊、警察、消防、病院他、各種団体、民間企業)が連携を図り、それに対していかに的確に、そして迅速な対応が、各種団体の垣根を超え実行できるかの確認と訓練を大規模に行うものです。

今回の想定は高島市付近で発生した震度7地震、そして大規模災害の発生でした。私たちの担当は、災害事故で亡くなられた方が検視・検案をされ、ご遺体が衛生処置をされた後の、

着付け(浴衣等)と納棺を担当。昨年同様、準備も十二分に行い現地でのオペレーションの確認、警察との連携の確認、故人様への対応等を首尾よく行いました。

警察、医療チームのみなさまの本番さながら



な真剣な取り組みに心を打たれ、また遺族役のボランティアの方の子供を亡くされた親を演じる迫真の演技に、私たちも身が引き締まり、そして故人様の最後を託された責任感を強く痛感いたしました。



節分とは……

「節分」は、そもそも季節の分かれ目のことで、本来は四季それぞれ(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことでした。いつの間にか春の節分だけが残り、他の季節の節分が忘れられ、現在に至っています。

大寒より15日目のある日が立春になりますので、その前日が節分にあたり冬の最後の日になります。この日は春の始まる「大晦日」「年越し」ともいえます。現在の節分は新暦で行われていますので、2月3日になりますが、旧暦では12月の末か1月に節分の行事が行われていました。

豆撒きの行事も、新しい季節を迎えるため邪気を取り除き、新しい年、春を迎える行事として、大晦日に行われてきたのですが、現在では大晦日と切り離され節分行事として行われています。

節分の豆撒きの風習は、中国から伝わった「追儺(ついな)」の儀式に由来します。追儺は「鬼やらい」ともいって、疫病や災害を鬼と見立てて追い払うための行事です。この風習が1300年ほど前に遣唐使によって日本にもたらされました。日本で節分に豆を撒くようになった時期には諸説ありますが、平安時代に京都の鞍馬の奥に人々を苦しめる鬼が住んでいて、ある時毘沙門天が現れ7人の賢者を呼び、「大豆で鬼の目を打て」と命じて鬼を退治した話が伝わっています。

大豆は魔よけの霊力があり、暴れる鬼の目に炒った豆を投げつけることで鬼が逃げ去ると信じられてきました。豆には「魔目」や魔を滅する「魔滅」の意味もあります。余談ですが、

節分には家庭や幼稚園等で「鬼は外、福は内」と叫んで福豆を鬼さんに(年男)投げつけます。ちょっと目先を変えますと鬼さんも可哀そうな気がしませんか?! 豆を投げられ追いつかれた鬼はきつと、怒るし、恨んでいるに違いありません。油断していると仕返しにくるかもしれません。改心した鬼なら、やさしく「福は内、鬼も内」と言ってやると、鬼さんも今度は味方になってくれるかも……いかが?

他方、節分に「恵方」に向かって「恵方巻」の巻きずしを、モノを言わずに食べる風習は諸説あります。古いところでは江戸時代の大坂の花街が始めた「商売繁盛のため、1年の福を巻く」という由来や、昭和のはじめに大阪の鮮商組合が始めたとか、その後、海苔を売るために大阪の海苔の組合と鮮商組合がポスターを作り共同作戦で風習を広めたなどです。いずれも発祥の地は大阪(関西)にあるようです。ただし全国的にこの風習が広まったのは1989年、広島県のセブンイレブンが関西の風習を真似たのが当たってからだそうです。



立春とは……

旧暦の太陰暦の新しい年が明け春の季節が始まるのが「立春」です。この頃は春風とともに寒さが和らぎ、万物が新しい装いをする頃

です。また東風が吹き氷も解け始め、地中では冬ごもりの虫たちが動き始め、水中に休止していた魚も出てきますし、木々も芽を吹き始めます。正に一年の季節の始まりです。二十四節気(1年を春夏秋冬に分け更に6分割したものの)、その一番目が立春なのです。

二十四節気の中の歳時記や雑節(彼岸・梅雨・中元・お盆・土用等)も立春から計算します。特に日本の農事(農家の収穫等)は立春が起点となることが多いのです。「夏も近づくと八十八夜」も立春から数えて88日目(稲の穂が開花する大事な時期)、二百十日・二百二十日の農家の厄日(災害・台風が来る時期)も立春から数えて210日・220日目です。

寒の内とは……

小寒(1月6日)から大寒までの15日間、大寒(1月20日)から立春までの15日間、合わせて30日間を「寒の内」といいます。小寒を寒の入りといい、この頃から「寒中見舞い」を出し始めます。喪中のために年賀状や年頭の挨拶ができなかった人たちが寒中見舞いをするのです。

1年中で一番寒い時期になりますが「寒の内」の期間にはいろいろな行事や仕事が集まります(寒げいこ・寒中水泳・寒行・耐寒登山・耐寒マラソン等々)。

またこの時期は仕込みの時期といわれ、お酒の仕込み・凍り豆腐・味噌仕込み等が行われます。寒に餅をつくとかビが生えないといわれています。

「寒の内」はインフルエンザが猛滅をふるう時期ですので、お気をつけください。



協力 喜美家
彦根市長曾根南町429-1 tel.0749-23-8129

彦根・ペルロードにある喜美家は、近江牛のみを扱う老舗の精肉店である。店主の川口均さんは3代目、その創業は大正時代に遡る。近江八幡で牛の仲買人を始め、昭和30年代に「喜美家」の名前で八日市に小売り店を出店、昭和50年頃に彦根に店を出し現在に至る。仲買人がルーツなだけあって、扱う牛肉は鈴鹿山麓の湖東平野で丹精込めて育てられた確かな近江牛のみだ。それゆえ、長年の常連も多い。

「喜美家」という名前は、先代の奥さん、つまり均さんのお母さんの名前「喜美子」さんに由来する。奇しくも現在放送中の連続テレビ小説「スカーレット」の主人公と同じなだと均さんが教えてくれた。そして、「屋」ではなく「家」としたのは、みんなが集まる家のようなお店にしたいという思いが込められているのだそうだ。

創業から100年あまり。喜美家は彦根の地でみんなが集まる「近江牛専門店」としてこれからも続いていく。

伝統

淡海の老舗

スタッフ奮闘記

■ 葬祭事業部



突然ですが、お葬式って「なぜ？」が多いと思われたことはないでしょうか？「なぜ？」宗教や地域によって送り方が違うのか？「なぜ？」焼香をしたり玉串奉奠したり献花をするのでしょうか。「なぜ？」神棚に半紙を貼るのか？ 仏衣を着せたり手甲脚絆などの旅支度をしたり、「キリ」がありません。最近はインターネット等で調べてみると答えは分かるかも知れないのですが……。でも考えてみると、故人様に対する想いが色々な形になり「しきたり」として受け継がれてきたのかもしれない。先人の方々が長年続けてこられたということは、もちろんそれぞれに意味があることです。

私たち葬祭事業部は、古き良き時代に行われてきたご葬儀と、現在の新しい考え方を踏まえてみなさまに寄り添いお役に立てますように日々頑張りたいと思います。

(水谷 秀樹)

■ 生花事業部



こんにちは。生花事業部の福永です。ここではいつも部署のことを書いていますが、今日は自分の話をしたいと思います。

勤めてもう5年が経ちました。年齢では一番下ということもありがむしゃらにやってきました。自分の役割として「みんなの負担を減らすことができれば……」と思い

一人でできることは僅か知りながら人を頼らない姿勢でやってきました。結果、一部の人と距離ができましたが、ある出来事で自分という存在を知ることができました。

これまで無茶をしてたくさんの方に叱られ、ある方が「一人では必ず限界がくる」「自分を信用してほしい」「うまくまわりを使えばいい」と心配してくださいました。後輩にここまで言ってくれる方は多くないでしょう。この時「自分は人を頼っていいのだ」「すでに認められていたのだ」と思いました。

71期はゼロベース(原点)にもどり見つめなおす年でもあります。もう一度やり直せるのであれば、考えを新たに進みたいと思います。

(福永 剛史)

■ PLAZA IRIS



2019年1月、メモリアルプラザ公益会館敷地内に【葬儀・法要相談サロン】をオープンしました。悔いを残さないご葬儀のために、不安を安心に変えていくサポートが少しでもできるようにとの思いからできたサロンです。実際にサロンへ相談に来られる方は「葬儀ははじめてだけど、どうしたらいいの?」「お寺さん呼ばなければダメ?」「費用はどれくらい?」など様々な不安を抱えておられます。その不安を少しでも解消していただけたらと『修活ファイル』が誕生しました。終末の代わりに修生、人生を修めるための活動サポートをさせていただくファイルです。

お葬式のことでなく、ご自身のお気持ちを書き記せるエンディングシートや、ご家族のお考えをまとめられる心の整理・安心シートもついてあります。プラザアイリスや各会館に設置しておりますので、ご自由にお持ち帰りください。またサロンには、手元供養品を陳列しています。従来の形にとらわれない自分らしい、または故人らしい供養という想いに応える偲びと癒しの対象として新しい供養のジャンルとなっています。是非、お越しいただきご覧ください。

(清水 まゆみ)

■ ホール事業部



今年8月、静かな八日市公益会館にある異変に気づきました。どこからか子猫の鳴き声が聞こえてきたのです。でもネコさんの姿はどこにもない。耳を澄ましてみるとなぜかロビーの壁の中から声が。母猫がエサを探しに行っている際に迷い込んで天井の隙間から落ちたのだろう。日中は30度を超える暑い時期。それにその日はお葬式がある。でも女性スタッフではどうすることもできません。そこで、

葬祭部と運輸部スタッフが駆けつけてくれて、出棺後の時間でなんと壁を破り中のパイプの隙間に入り込んでいた子猫を引っ張りだして救出成功。そこに火葬場から戻ってこられたご当家。昨夜のお通夜後から鳴き声が聞こえていたとのこと。何かの出会いを感じられたようでそのままご当家の元で暮らせるようになりました。奇跡の救出劇となりそこには確かな命の絆が存在していると胸が熱くなりました。お葬式の場面から心温まる感動の日となりました。

(小口 英利)

■ 運輸事業部



お葬式に葬儀会館を利用されることが主流になり、私は運輸部としてご町内から公益会館への送迎バス等の運行等を担当しています。暑い夏の日のお出来事でした。予定の配車時間より少し早めに到着したので、バスから降りて通行車両等に迷惑がかからないか周囲の安全を確認していたところ、早々に年配の女性が来られました。左手に日傘、右手にペットボトルを持っておられバスに乗車するなり「運転手さん暑いでしょ、冷たいお茶どうぞ」と、そのペットボトルを私に手渡してくださいました。汗かきの私にとっては天からの恵み。ありがたかったです。人の気持ちを察する行為に頭の下がる思いで感謝の気持ちでいっぱいでした。

送迎バスの乗降には特に気をつけ段差を少しでも少なくするために踏み台を設置したり、年配の方には手を添えたりさせていただいています。特にお帰りの際に「お世話になりました。お気をつけて戻ってください。」とお声を掛けてくださる方も多くいらっしゃいます。当たり前のことでこんなに温かい言葉をいただけ恐縮しています。これからも安全安心にお客様を送迎することはもちろんですが地域とのつながりも大切に業務を進めてまいります。

(中山 良輝)

■ 総務部

私たち公益社では毎朝、朝礼を実施しています。昨年より、朝礼のあり方をより良いものにしていこうと、改善をしています。まず、朝礼を定刻での実施としました。当然のことですが、時間を守るということの大切さを意識すること、また一日の仕事の始まりの区切りをつけることという意味での朝礼時間の定着、そして、進行役を交替で行います。進行役は前に立ち、連絡や報告が伝わりやすいように元気にすすめています。朝礼の終わりには3つの唱和を行なっています。1つ目が交通安全スローガン。このスローガンは毎月、運輸事業部が社員の安全運転を願って考え、掲示しています。次に社は社訓・社内スローガン。最後に社員の信条・クレド「私たちの約束」です。10の信条がありますが、毎日1つを唱和しています。全員で大きな声を出し、唱和することでチームワークを意識すること、気持ちの良い一日のスタートを切る朝礼をこれからも続けていきます。



(宮井 香織)

教えて 成亥先生

冠婚葬祭アドバイザーの成亥先生に聞きました

ご葬儀の準備は どうしたらいいの

突然訪れる「死」……、葬儀はその時から始まります。しかも3日間戦争といわれますように、ほとんどが2日か3日以内に終わることになります。ですからご葬儀の準備は、ご遺族にとっては大変なご苦労になります。

昔のご葬儀は町内が仕切っていたり、葬儀を知る長老や世話役がおられました。このご時世は急速な核家族化と近隣の付き合いの希薄化が進み、ご葬儀はご遺族がすべて行うのが現実です。

そこで、是非おすすめしたいのが「事前(生前)相談」です。それにはまず信頼できる「葬儀社」を選定することです。更にもその葬儀社の一番お得な特典商品(会員)を契約することで、葬儀社と深い信頼ができます。あとは、ご葬儀に関しての分からないことを細部にわたって聞くことです。

葬儀社でも、自社で葬儀をしていただくお客様ですので、丁寧に説明してくれます。この方法がご葬儀の準備の不安を解消することになるでしょう。



みなさまのおたよりから



- Q 僧侶に渡す御礼の袋には、どう書けばいいのか教えてください。(彦根市：女性)
- A 一般的には「お布施」ですが、宗派や寺院により「御法礼」や「上」での表書きがあります。菩提寺に確認することが必要です。
- Q 他の葬儀場ではフォトを写される所がありますが公益社ではこのようなことはされないのでしょうか。(東近江市：男性)
- A 当社でもご希望のお客様には写真撮影や、故人様を偲ぶメモリアルDVDの作成を行っております。
- 表紙のさるすべりの花、私の家にも今年は沢山の花をつけてくれました。ニッポン再発見は興味あります。仏像はもちろんのこと、壁画は大切にしたいですね。(東近江市：女性)
- 寄せ植え教室やプリザーブドフラワー教室とても楽しみにしています。いつも親切、丁寧に教えてください。フレンドリーなところもいいです。(彦根市：女性)
- 御布施については正しい知識が身につきました。とても参考になりました。(東近江市：女性)
- アイリス通信を通じて、いつも新しい発見と知識を得ており感謝しています。(彦根市：男性)
- 何度も訪れているはずの西明寺ですが、改めて訪れてみたいと思いました。(彦根市：男性)

いつもたくさんのおメッセージ、ありがとうございます。

年末大感謝

ご愛読者プレゼント

会員のみなさまに日頃の感謝の気持ちを込めて

「淡海のお舗」でご紹介 喜美家様
近江牛 500g

はなやかなお正月の花飾り
「迎春寄せ植え」



抽選で
10
名様に



抽選で
10
名様に

*写真はイメージです

- 同封の応募ハガキのアンケートにお答えのうえ、必要事項を記入しご応募ください。 **応募締切 令和元年12月20日(金)必着**
- 当選された方にはプレゼントお渡し日・場所をご連絡させていただくと共に、次号にて発表させていただきます。

vol.71 「鮓割烹 銀水様 お食事券」ご当選者

■彦根市／中野久枝様・若林賢一様・岩元照留様・前川豊様・村岸直浩様・八若幸代様 ■犬上郡多賀町／岸本貞雄様 ■東近江市／西村美代子様・富田健一様 ■近江八幡市／奥田道明様

スタッフの取り組み

今年の夏は大変暑く、会葬へ来館される方への暑さや熱中症対策として、水出しお茶の提供、経口補水液や塩分補給の飴を常備し気分が悪くなられた方への応急処置をさせていただきました。またいざというときに備え、非常持出袋、救急箱の点検をおこないました。

今後も会館に来られるみなさまに、安心してご葬儀を執り行っていただけるようサポートしてまいります。

(ホールスタッフ)



アイリスクラブ
LINE 友達募集中!



アイリス会員様にお得な情報を配信いたします。
LINEのお友達登録から「QRコード」または「ID検索：@hya0049s」で登録してください。

公益社は、24時間365日いつでも対応いたします

株式会社 公益社 本社：〒522-0054 滋賀県彦根市西今町939番地
TEL.0749(22)5000 FAX.0749(22)0042

ご葬儀のご相談・ご依頼・資料のご請求は

☎ 0120-61-4000